

特集 批評の喜び・書評の愉しみ

対談 斎藤真理子×中沢けい 6

木村朗子 批評性とはなにか 40

渡邊英理 批評の言葉を探して 45

鴻巣友季子 ラスコーリニコフと友だちになりたいかい？ 50

水田宗子 批評とジェンダー 54

小池昌代 引用のふるまい、思い出すこと 59

小川公代 『翔ぶ女たち』という批評を書いて 63

倉本さおり だいじよばない時代の批評 68

名作再見

馬場あき子 非在の風景の中で 72

富岡多恵子 町人の血 78

竹西寛子 器／二つの祖述 84

文科 何もなくとも全てがある 赤坂真理 92

残してあげたい―早く逝きし俳人たち 樽見博 95

去来草 梶川信行 98

ご利益さん 蓮坊公爾 100

教材としての三木卓さん 矢樹育子 102

祭とわたし 寺村摩耶子 104

創作 くすぐり〈3〉 大道珠貴 110

立川まで 杉崇志 119

逆写像 南みや子 131

ハーモニクス 竹野滴 147

わたしたちは散歩する 渡谷邦 164

集中連載

氾濫する『豊饒の海』 松本徹 241

―三島由紀夫 最後の五年間①

同人雑誌季評

ことばの不全 谷村順一 213

神なきモノダの孤独 河中郁男 220

名作の舞台―記録と記憶(17)⑬
『伊勢物語』・志賀直哉『暗夜行路』 清水節治 90

学界への窓 23

食う寝る遊ぶ／木更津の地ビールに、乾杯！／日々のこと……

土倉ヒロ子 204

文藝季評 46

女性の生きづらさを描く短編集 伊藤氏貴 208

明日行灯〈6〉

連載 スキャンダル 麻田実 177

海の詩学―三島由紀夫〈13〉

「花ざかりの森」の中の海(上) 鈴木ふさ子 183

道元―「正法眼蔵」の宇宙と人間(七)

有時―恒久普遍なるもの(二) 勝又浩 280

同人雑誌および本誌会員から

同人誌「橋」^{マスト} 発行の経緯とその後について 西野小枝子 212

岩

勝又浩 89 松本徹 146

会員規約 292

今号の執筆者 293

編集後記 294

今号の柴田翔「遠き日々 映る影たち」、中沢けい「中上健次と韓国」、松本徹「金閣の建つ庭」「大倉山から」は休載となります。

季刊文科 96

鳥影社